

◆特集 高市政権で、女性の地位はあがるのか!

幸せを感じられているか

千葉県 松戸みえこ

不安定雇用で低賃金

私は現在、「不安定雇用で低賃金」に当てはまる立場にある。契約は短期で収入は決して多くはなく、将来の昇給や安定が約束されているわけでもない。統計的に見れば社会的に弱い立場に分類されるのだろうと思う。

しかし、では私は不幸かと問われれば、必ずしもそうだとは言えない。今の私は家族と共に暮らしており、そのお陰で少なくとも衣食住は保障されている。住む場所があり、毎日食事をとることができるということは、決して当たり前のことではない恵まれたものだろう。また、友人や職場の知人との繋がりもあり、日々の中で笑い合ったり、悩みを共有したりする関係性を築けている。さらに、現時点では自身や家族も大きな病気を患ってはならず、概ね健康的な日常生活を送ることができている。こうした点を総合すれば、私は「環境に恵まれてい

る」という意味で、決して不幸ではないだろう。小さな楽しみや穏やかな時間もある。幸せというものをその時の時の充足感や、人との繋がりの中に見出すのであれば、それらを日頃から感じる事ができている今現在の私は幸せだと思う。

しかし同時に、将来への不安も常にある。不安定雇用であるということは、収入がいつ途絶えるか分からないということである。低賃金であるということは、貯蓄が十分にできないことを意味し、予期せぬ出費や病気、家族の状況の変化に対応する余裕が少ないということでもある。

政治や福祉制度の動向にも左右

さらに、政治や福祉制度の動向にも大きく左右される立場にあるように思う。社会保障がどのように維持さ

れるのか、医療や年金、生活支援がどこまで頼れるのかは、個人の努力だけではどうにもならない問題である。

制度が縮小あるいは改「正」されれば、真っ先に影響を受けるのは私のような立場の人間だろう。そのような意味で、私の安心は常に社会全体の在り方に依存しているのだらうなど日々感じている。

また、自分自身の身の振り方についても悩みは尽きない。このまま同じ働き方を続けていいとは到底思えないが、資格を取るべきか、転職を目指すべきか、あるいは別の生き方を模索すべきか。選択肢があるようであるが、実際には経済的・時間的制約、また個々の能力によっても大きく制限されている。新たな挑戦にはリスクが伴うが、そのリスクを引き受けるだけの余力が十分にあるとは言いがたい。

不安は確かに存在している

つまり、私は「今この瞬間」に限れば決して不幸ではない。しかし、「これから先」を思うと不安は確かに存在している。自分を含めた不安定雇用で低賃金の女性たちが不幸であるとは必ずしも言えないが、幸福を感じにくい条件が多いことは事実であると思う。それでも当

人が置かれた生活環境、人間関係、健康状態といった様々な要素によって一定の幸福を感じることは可能である。そもそも何に対して幸福を感じるのかは各個人で様々である。何かしらの目的がありその環境に身を置いているのであれば、それでも幸せなのだと感じる人もいるだろうし、先に挙げた様々な要素を得ていても、何か一つ欠けているだけで不幸だと思う人もいるだろう。

小さな幸せを感じながらも

幸福と不安は、必ずしも対立するものではなく同時に存在しうる。私は今、日常の中で小さな幸せを感じながらも、漠然とした将来への不安を抱えている。その両方を抱えたまま生きているというのが、正直な実感である。幸せかと問われれば「そうではない」と答えるし、かといって不幸かと問われればそれもまた「そうではない」と答えるしかない。

そしておそらく、それは私一人ではなく、多くの同じ立場の女性たち、あるいは現代を生きる多くの人々に共通する感覚なのではないかと思う。

(まつど みえこ)